



おめでとうござります!!

祝「みやぎSDGsアンバサダー」認定! 「わたしのSDGs活動宣言」Vol.25

私はみやぎSDGs塾を通じて、取り組みの発信や東松島市へのバスツアーに参加し、メンバーと言葉を交わしていくなかで、SDGsに対する理解を深められました。知らないことは恥ずかしくいってはいけなく、無知を分かち合うことができたことがとても大切です。捉え方や視点次第でSDGsの骨格は見えてくるのです。



「SDGsって結局なんだろ?」。社内でも担当となった時の率直な気持ちです。皆さんはSDGsを自分の言葉で伝えることができますか?」

私は、地元の伝統芸能を絡めて地域の持続可能性を研究していますが、大学の「生涯学習論」という講義で、長野県のシニア大学の報告会を見させていただいた際に、お年寄りの方々が学び続けられ、「コミュニケーションをとれる場があることを知りました。住み続けられるまちをつくる為には、目標4の「質の高い教育をみんなに」の充実が重要だと感じました。「自分の頭で考え、行動する」。人口減少が問題になっている社会で、個々の主体性



「人口が減少しても、住み続けられるまちをつくる」これが私の興味関心の一つであり、これからの社会が直面する大きな課題です。

参加理由としては、小学2年生の時に東日本大震災を経験し、当時の私と同じように不安を抱えた被災者の方の助けになりたいと思ったからです。この活動をきっかけに、持続可能な町づくりには災害が起きた際に、復興に向かえる体制が重要であると考えました。能登半島のボランティアは5日間行い、避難所となっている体育館で物資の運搬作業や炊き出し、地震でぐちゃぐちゃになってしまった家の片付けや掃除を手伝い



私は大学3年時の春休みに、令和6年1月1日に起きた能登半島地震の復興のため、宮城大学の仲間と共にボランティア活動に行きました。



みやぎSDGs Farm

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGs Farm」の基幹プログラムです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。



詳しくはこちらから

賛同企業
募集中!!

[申し込み・問い合わせ]
河北新報社営業局
TEL. 022-211-1318
koukoku@po.kahoku.co.jp

無知で広がるSDGsの輪

国分東北 佐藤悟さん

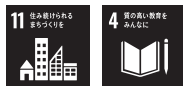
の活動も行っています。今後も地域共創を推進し、東北の食の地域経済を担う会社を目指します。課題はひとりでは解決できず、「三人寄れば文殊の知恵」ではないですが、集うことで解決への道筋が立てられます。学生が総合的学習の実践をしているように、私たち社会人も外に出て、実践の学びを得ることも重要です。その場がみやぎSDGs Farmであると考えます。SDGsの輪も広がり、地域共創活動にもつながられています。出会いに感謝しつつ、紡いだつながりを大切に。参加して終わりにしない、ここからがスタート。私は持続可能なアンバサダーを目指します。



学び続けて持続可能を目指そう

尚絅学院大学 大学院 猪野拓歩さん

がより重要視されるようになっていきます。住み続けられるまちづくりを実現するには、地域の課題に適した解決策を見つけ出すことが不可欠です。そのためには、世代を超え、地域で丸となって課題を見つけ、内発的に行動を起こすことが重要です。コミュニケーションが希薄化している現代だからこそ、皆が集まり学びあえる場を設け、共に学び続けることが必要です。地域の持続可能性を考え、地域社会の発展に貢献するために、私自身これからも学び続け、解決策を見出す力を身に付けていきたいと思っています。



災害時にも復興できる街づくりを

宮城大学フードサービス論研究室 曾根咲桜さん

このボランティア活動を通して、復興の難しさを痛感しました。例えば、ボランティアの応募は殺到しているのにも関わらず、ボランティアの方が泊まる宿泊場所の確保や支援活動の振り分けがうまくいかないこと、壊れた住居の調査や撤去の対応が遅いことなどです。私は、各地域でいづいどんな災害が起こったとしても復興に向かえる体制を整えること、そしてそれに協力する人が必要であると考えます。復興協力者のひとりとして、今後も積極的にボランティアに参加したいと思っています。

